

海外出張報告書

2005 年度 情報デザイン学科 楠房子

2004年7月25日～2005年3月31日に渡航いたしましたのでご報告します。

7月

7月25日に到着し、学科の meeting で学科全体での meeting で紹介される。Eindhoven 工科大学は、工学系の大学であるが、総合大学に近く、いくつもの学部をかかえ、大きな大学である。そのなかで4年前にできた新しい Industrial Design 学科は、フィリップス・デザインと産学連携を行い新しい工業デザイン分野を研究している。

Industrial Design 学科は UI (User intelligence) UCD(User centered design) 2つのコースがある。UI は、ユーザの間の関係に焦点を合わせた研究で、将来の知的な製品、およびサービスを研究している。UCD は、現在の製品、システム、およびサービスに関して設計されたものを対象としている。学科主任は Loe Feijs 教授である。この学科では、デザインのために研究するのではなく、社会のなかでの人々の生活に基づいて、工業デザイン研究は、行われるべきだという考えに基づき、研究を行っている。

私は両方のコースの meeting に参加することにし、毎週水曜の meeting、マチアス教授との meeting を行いながら研究を続けることにした。

8月

各コースとも夏期休暇をとるスタッフが多く、講義も meeting も休みとなる。新しい研究テーマを調査しながら、今までの研究成果を論文にまとめる作業にはいる。論文の成果を同僚にみせながら、discussion をする。日本では得られなかった意見がでるので、参考になる。コンピュータサイエンス学科の助教授にも紹介してもらい、オランダの教育研究についてレクチャーを受ける。ヨーロッパでの研究資金の取り方など教えていただき参考になる。

9月

自分の研究分野に近いグループに所属するために、学科内での研究論文をサーベイした。その結果、UI グループのエンターテイメントコンピューティンググループの研究が近いことがわかる。そこで、ベンサーラム助教授と学生とで共同研究をスタートした。

国際会議 ICEC (International Conference of entertainment computing) デモ発表を行う。大変大きな国際会議であり、自分が滞在している間にこのような学会が所属する大学であるのは良い機会に恵まれたと思う。外国人として学会で発表するのと、ローカルアレンジメントとして国際会議に参加するのではおおきな違いがあることに気づく。

大学スタッフとともに訪問する日本人のケアを行う。日本人は、やはり固まる傾向にあるのと英語が十分でないので、なかなかバンケットでとけこめない。今回は事情がわかるので、なるべくオランダのことをわかっていただくために努力する。

10月

4年生の卒業制作の指導を行い、日本の卒業制作指導との違いを学ぶ。オランダの学生も日本の学生のように、卒業制作を行う、期間は半年で成果を出すので大変である。

またUIコースの研究meetingに興味に近いテーマのときは参加し、グループ内の研究について理解を深めるとともに積極的に自分の研究の紹介もデモを交えて行い意見の交換を行う。評価の手法について日本とずいぶん異なるので、意見を交換する。

IEEE Int. Conf. on Systems, Man & Cybernetics (SMC2004)が、オランダ国内ハーグ市で開催され、論文発表を行う。ハーグ市は、eindhoven市から、2時間ほどであるので、日帰りでai日かよう。学会は、3セッション平行で行われ、日本からきた研究者に再会し、研究の進捗状況を話し合う。東京理科大の溝口教授とも再会し、科研費の打ち合わせも行う。

11月

IPSI2004の参加するためイタリア国ベニスに出張する。ベニスへは、アムスから、直接飛行機で出張できるので近く感じる。発表も無事に終了し、オランダに帰国後、大学で出張報告をかね、自分の研究を学科でプレゼンテーションをする。

実験場所としてインタラクションデザインセンターを使っても良いという許可がおりる。オランダの小学生たちとの実験に参加する。こちらは小学校にいかずおおきな実験室に呼んで実験を行う。観察室がよくできていてうらやましい設計である。

12月

マーストリヒト大学コンピュータサイエンス学科の博士課程の審査に出席、審査官の方々の意見を伺いオランダ国において博士審査の過程について知見を得た。オランダの博士課程は、日本に比べると長く10年近くかかる。博士を終了するという事は、大きな問題なので、審査も非常に厳守でセレモニー的な意味合いが強い。終了後のパーティにも参加し、いろいろ博士課程の研究の大変さを聞くことができた。今後ポスドクでいく多摩美の学生がいた場合の参考になる話が多い。

2005年1月～2月

UCDコースのmeetingにも参加し、experience designの研究にも参加し、交流を深める。帰国が近づいているので成果のまとめにはいる。オランダでの研究成果をもとに、

ACE2005 に投稿、論文が採択される。(倍率 5 倍) 共同研究者である生田目教授、寺野教授とともに送り、論文の訂正を行う。

3月

3月初旬には MIT 宮川教授を訪問、科研のテーマである博物館における展示支援について meeting、宮川教授の研究成室をたずね、meeting を行う。MIT は、インタラクシヨンの研究では世界有数であるので大変参考になる。数日滞在していろいろとデモも見せていただく。PS1、MOMA も見て回り、現在アート作品を鑑賞、帰国の途につく。

以上